



KAERI 核データグループを訪問

Los Alamos National Laboratory

河野 俊彦

kawano@lanl.gov

論文英語ではまず見かけませんが、実会話ではしばしば使われる便利な単語、reluctant。最近、核データニュースへの寄稿は避け気味で、国際会議参加に際しては中川氏に「どこの誰々さんが参加されてますよ」と必ず先手（ちくり？）を打つのですが、今回は比較的気楽な「読者の広場」とのこと。2009年9月中旬、KAERIの核データグループに招待して頂きました。Lee Young-Ouk氏率いるこのグループは日本の核データコミュニティでも良く知られておりますし、共同研究や日韓共同主催の研究会も行われています。短い滞在でもありましたので、ここではその時の印象・出来事などを簡単にご紹介いたします。

アメリカから韓国です。その気になれば日本を中継することもできたのですが、今回は仕事に専念しようと直行のUnited便を選びました。日本を飛び越えて韓国ソウルに向かうのは何だか変な気分です。機内では客室乗務員が韓国語で話しかけてきます。韓国語は分からないと何度も言ったんですが、この顔じゃ仕方ないか。新型インフルエンザの対応に追われているのは韓国も同じだったようで、飛行機を降りた所で全乗客の熱を測っていたのには驚きました。この水際対策はKAERI入り口でも実施中で、毎朝入所するたびに熱を測られるのには少々閉口しました。もし熱があったら入所禁止なんじゃないか。前の晩、少々飲みすぎで、やや熱っぽい日もあったんですけど。

漢字では大田広域市と書きますがアルファベット表記は少々曖昧で、自分の記憶が正しければ科学万博が開催された頃はTaejonと書いていたと思うのです。今はDaejeon、母国語発音を英語表記しにくいのは日本とて同じ。そのDaejeonまではIncheon（仁川）国際空港から160km、高速バスで3時間ほどです。チケット売り場でDaejeonまでの運賃を聞くと"Twenty-Eight"と答えます。28ウォンということは無いし、それは28,000か？と聞き返すも、答えは"Twenty-Eight"。ゼロ三つは脳内デノミなのか？

チケットに記載された文字は数字を除いて全てハングルなのでさっぱり分かりません。

それらしきバスが来たので「でじょん？」と運転手さんに聞くと、何か返事されたのですがイエスっぽいジェスチャーのみ理解できました。バスに乗り込み適当に座って出発を待っていたら、他の客の様子が変わります。どうやら座席を確認しつつ座っているらしい。指定席？近くにいたビジネスマンらしき男性に尋ねるとやはり全席指定です。慌てて正しい席に移動しようと思ったら、偶然にも今の席が指定されていた場所でした。国際空港発着バスなんだから英語も併記してよ、とちょっと愚痴った次第。

Lee さん（日本風の呼び方ですが、こう呼ばせて頂きます）のグループで一番印象に残ったのは、とにかくメンバーが若いということ。それに呼応して研究活動には非常に積極的です。Lee さん自身この事は意識しておられる様で、若手研究者を積極的に国際会議に出席させ、また海外研究所への長期派遣をサポートすることで、韓国での核データ研究を活性化しようとする意志が伺えます。研究内容も、核反応模型の研究から中性子輸送計算、EMPIRE コードを用いた断面積計算と核データ評価、それに共分散評価とその処理に至る多岐にわたるもの。もちろん各々がやや小ぶりの感は否めませんが、Lee さんのリーダーシップの下、すぐに核データの重要なセンターの一つとして認識されるようになると思います。

滞在中、核理論の応用としての核データの話をしました。やや自分の趣味に走りすぎたかなという反省もありましたが、皆さん、真剣に聞いてくれ、質問も活発で、話をする立場としてはこれほどの僥倖はありません。少々難を言うなら、滞在中もっと活発な議論、それに Los Alamos やアメリカ全体での核データ活動への忌憚無き質問を期待していたのですが、そういう点ではアメリカやフランスの研究所を訪問するのとは勝手が違います。こういう場では、アメリカから来たという立場を考えるのか（つまりズウズウしいということ）、あくまで日本人として対応すればいいのか（つまり謙虚）、悩むところ。まあ自分自身謙虚であった例が無いのは皆さんご存知。

さて、韓国訪問前にちょっと気になっていたのが食事。昼食は KAERI のカフェテリアとしても、ホテル近くで手軽に夕食を取れるレストランがあるかなと心配していました。もちろんレストランくらい何処にでもあるでしょうけど、メニューが読めねば注文もできない。それに、韓国料理というと、大皿小皿を大人数で分け合って食べるイメージがあります。逆に言えば一人ディナーは寂しい。焼肉レストランに一人で出かけませんよね。そんな時はホテルのレストランで済ませればいいのかと高を括っていたら、なんのことはありません。毎食しっかり韓国レストランに招待して頂きました。基本的に韓国料理は好きなので、ここぞとばかり本場のキムチ、ビビンバやポッサムを額の汗を拭きながら堪能させてもらいました。2010 年には Lee さんらの主催で ND2010 国際会議が開催されますが、再び本場韓国料理を食べられるのが楽しみです。思い出すが、2001 年の筑波での会議。毎日夕方になると「今日は、どこで食べる？」と西洋人がぞろぞろと集まってきたこと。「おめーらたまには一人で食に行けよ」と思わないでも無かったです。

が、まあ異国の地での食事が簡単では無いのは誰しも同じこと。

帰国当日に長距離バスに乗るのはちょっと不安なので、最後の晩はソウルのホテルに移動しました。新世界百貨店で土産物を物色していたのですが、デパートで売られている物は日本と変わらないし、生の食材はアメリカ入国時に面倒です。韓国土産でポピュラーなものに BB クリームと言うものがあるのは事前リサーチで研究していたんですが、コスメティックコーナーには凄まじい種類の商品。とても選びきれません。こんなことなら、やっぱり成田経由にすればよかった。実際、Lee さんのグループ皆から「帰りは日本に寄るんだろ？」と聞かれたほどです。

結局、空港の土産物屋で韓国の金属製箸とブックマークを買いました。他に何か無いかと歩き回っていると、店員さんが日本語でしきりに朝鮮人参をすすめてきます。それに興味が無いと分かると、今度はいかにも観光地土産っぽいパッケージのチョコレート。それも要らないと断ると「朝鮮人参チョコレートもありますよ」。

それ、絶対に要らないから！

来年の韓国での国際会議を控え、韓国の核データ活動が非常に注目されている時期でもあります。そのような時期に Lee さんのグループを訪問できたことは幸いでした。日本語の文章にこのようなことを書くのも変ですが、Lee さん、それに僕の滞在を全面的に世話してくれた Kim さん、積極的な議論をしてくれた Gil さん、それに暖かいもてなしを用意してくれた Oh さん、そして Lee さんのグループメンバー全員に、この場を借りて感謝の意を表します。来年の国際会議が韓国核データの大きなマイルストーンとなることを確信しております。



写真1：武寧王陵の石獸



写真2：東鶴寺大雄殿